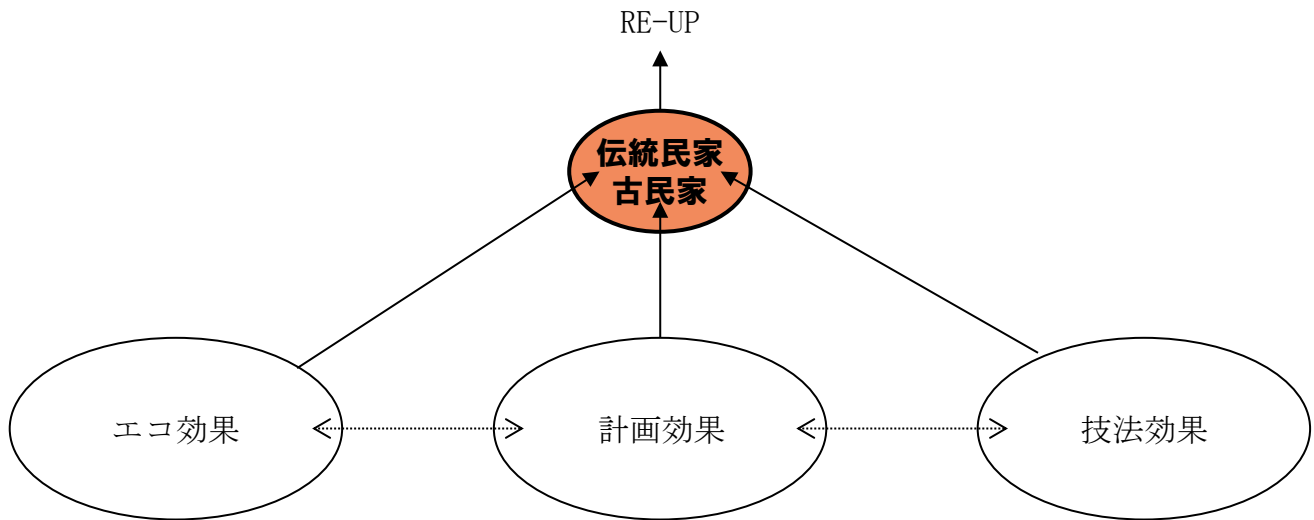


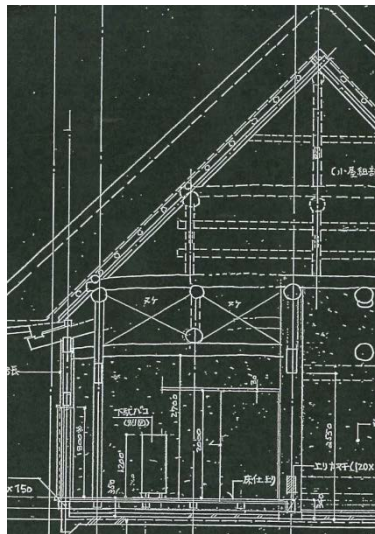
3つの効果を複合し伝統民家をリフォームする



エコ効果とは、環境条件と省エネ手法の両面からのアプローチである。改修では木材など自然素材の持つ力に支えられたパッシブな工法で考える。同時に立地環境による日射・通風などの自然力の制御と活用プログラムをたて、省エネルギー化と居心地の良さが確保できる条件を整理する。

一般的なリフォームの現場では、老朽化或不具合の修理等のハードに終始しやすい。計画効果とは、リフォームの進め方から計画性、設計力が改修工事の品質と完成度に関係する。民家の伝統を生かし、かつ未来志向すら兼ね備えた住環境スタイルとして現代に甦らせるための計画・設計力を注ぎこむ。

伝統工法を継承するリフォーム工事は、諸職人の「集力化」を基準に据える。施工は大工職、左官職、建具職等の手仕事を主に進めるため工事における技術的な力量や知識・経験の豊かさが高品質・高価値を生む。また住み手が求める工事内容に適した施工者の専門分野の棲み分けも必要である。



#### 《リ・アップについて》

ここで私たちが取り上げている“RE-UP”は、正式な英語にはない。[re]と[up]を複合した表現である。「既存のモノを再評価し、新たに高い価値をもつモノに置き変える」という意図がある。「リフォーム」により、住まいがもうひとつの価値をもった評価に置き換わる手法として解釈して欲しい。

この“RE-UP”は既存の対象/モノに価値を付加させ、転換する方法であるため、担い手(造り手)により生産される価値の質と量に違いが生じることになる。住宅においても同様である。そのために上記「3つの効果」を指針として提示している。

#### 《伝統工法と伝統民家/古民家の再生》

伝統民家は、多くの長所が指摘され、実証されているにもかかわらず、現在もなお解体されつつけている。老朽化やライフスタイルの変化、難しい維持管理などの理由から、解体され現代工法の住宅に建て替えられている。

住み手にとっては、新築の方が「費用対効果」が高いと判断していることによる。

伝統民家は、職人技術と自然素材で建てられ、適正な工法と判断で改修すれば、見事に甦らせることができる。それは工業化住宅とは全く異なる住宅資産・市場の創造に導かれると考えたい。